

や ま だ ん の
山 田 野

43

独立行政法人 北陸病院
国立病院機構

〒939-1893 富山県南砺市信末5963
TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

第56回米国神経画像学会
年次学術集会に参加して

副院長 吉田 光宏



2018年6月1日から第56回米国神経画像学会 American Society for Neuroradiology (ASNR) の年次学術集会に参加し、「Diagnostic Accuracy of Brain and Heart SPECT in the Differential Diagnosis of Lewy Body Disease」のタイトルで当院での臨床研究の成果を発表してきました。発表内容は、2017年に診断基準が改訂された「レビー小体型認知症(DLB)」に関連したもので、脳血流SPECT、心筋MIBGシンチとダットスキャンという3種類の核医学検査のレビー小体病

診断における有用性を検討したものです。核医学検査は、CTやMRIに比べて、高額な検査であり、できれば検査せずに正確な診断ができれば一番良いでしょう。しかし、症状が複雑で経過がよくわからない場合やごく初期の場合など、正しい診断が難しい患者さんがおられます。このような時に、診断を正しく行うために各種検査を施行しますが、検査を受ける側や検査費用を負担する立場からすれば、できるだけ少ない検査数にしたいものです。

「レビー小体型認知症(DLB)」の診断基準には、これらの核医学検査の有用性が記載されていますが、今回の研究結果からどの検査を行うのが最もリーズナブルかを臨床家がデータから読み取って、日常診療の助けにしていただければ幸いです。

学会は、バンクーバーコンベンションセンターで行われましたが、想像していたより比較的小ぢまりとしたマニアックな会でした。

私がバンクーバーに行ったのは、今回3回目、おいしいジェラートの店、イタリア料理、牡蠣料理の店など必然的に詳しくなりました。食事に関して、今回一番良かったのは、インド料理店でいただいたインドビールで、インド料理によく合いました。



学会で予定が空いた時間に、ダウンタウンからブリティッシュコロンビア大学(UBC)まで見学に出かけました。途中雰囲気のある本屋さんに寄るとヨガや仏教、ヒンズー教などの関係アイテムや洋書が沢山あり、周辺にもヨガスタジオが多く、これまで知らなかったバンクーバーの一面に出会えました。



私は、以前カリフォルニアのUCデービスに留学していましたが、とても乾燥して暑かったので、今回は「サバティカル休暇」を導入してウエットな気候のUBCに留学するのもよいと思いました。

さて、北陸病院勤務の皆さん。前回も書いたようにと思いますが、国立病院時代の親方日の丸的なマインドセットから抜け出して、自ら外部資金を獲得し、陽当たりよく風通しがよいなかで、国内海外で活躍の場を広げましょう。

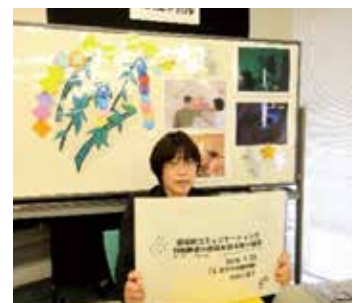
平成30年度

NHO学生フォーラムに参加

看護部長 井上 裕子



今年で10回目を迎えました東海北陸グループ内の機構病院附属助産科学生、および看護学生(2年生)、リハビリ学院学生が一堂に会し「平成30年度NHO学生フォーラム」が、7月20日名古屋の‘ウィルあいち’で開催されました。学生は約320名、学校・病院職員を合わせると450名以上が集う一大イベントです。このフォーラムは、①国立病院機構の医療や看護の理解、②東海北陸グループ内の学生の交流、③国立病院機構への帰属意識の醸成を目的としています。今年のテーマは、「共に話そう 機構の医療、友と語らい深まる絆」とし、学生が司会・進行を担当します。内容は、各学校の紹介や学生交流、各病院での実践事例紹介、全体討議などです。今回当院は、重症心身障がい看護の領域において、「視覚的コミュニケーションで行動障害の軽減を図る取り組み」を紹介しました。学生からは、「患者さんが何を訴えているのか観察することの重要性」や「情報を共有し統一した関わり大切さ」、「シンボルカードによる日常生活の可視化」など、今後の実習に活かすヒントになったようでした。また、看護および多職種の介入により、患者さんが変化し成長していった達成感などを共有することができました。これからも、北陸病院の看護の魅力を学生や地域の方々に発信していきたいと思えます。



北陸病院合同行事

盆踊り

南3階病棟看護師長 疋島 亮子



平成30年8月29日(水)に当院の夏の風物詩であります「盆踊り」を開催しました。多くの患者さんや職員が浴衣や法被を着ての参加で

した。さらに盆踊りの雰囲気盛り上げるため、体育館の中央には檣を組み、提灯による照明などシチュエーションにもこだわりました。

患者さんやボランティアの方々、そして職員が輪になって「炭坑節」「どんぱん節」「会津磐梯山」「麦屋節」「越中おわら節」の音頭に合わせ踊りました。またボランティアの方々による踊りもとてもきれいですばらしかったです。

患者さんの楽しむ姿やたくさんの笑顔が見られ、私達職員は多くの元気をいただきました。最後にボランティアの方々のあたたかいご協力に深く感謝するとともに、これからも季節感を感じて頂けるような四季折々のイベントを企画していきたいと思えます。



『平成30年度 認知症ケア研修』開催しました。

副看護部長
坪井 奈巳

平成30年9月11日～14日の4日間にわたり、「認知症ケア研修」を開催いたしました。この研修は、平成5年度に第1回を開催し、一時中止していましたが、平成27年度から再開し、今年度で24回目となり、富山県をはじめ石川県、新潟県から、総数16名の参加がありました。

本研修の特徴は、「認知症の人と家族の会」富山県支部の方々をお招きし、「家族会カフェ」と題して、当事者や介護者の立場から、自宅での様子や介護のご苦労を聞かせていただいていることです。また、富山県厚生部高齢福祉課の方からも、「認知症施策の最近の動向」について話をいただいています。そして、院長、副院長をはじめ各分野の専門家である医師、作業療法士、精神保健福祉士、薬剤師、心理療法士、管理栄養士そして看護師が講義をしております。今年度の目

玉はなんとといっても「高齢者疑似体験演習」でしょうか!!! 研修生に、高齢者スーツを着用してもらい、手足を動かすことがどんなに大変かを実体験してもらいました。また研修後半では、グループに分かれ事例検討を行いました。研修生は、自施設の患者さん、ご家族との関わりの方を改めて感じ、それぞれの職場に戻って、看護やケアに活かしていけるよう頑張っていきたいという声が多く聞かれました。

これからも、認知症患者さん、ご家族への看護実践能力向上につながる研修となるよう企画していきたいと思っております。

本研修に参加していただいた研修生の皆様、そしてご協力いただいた「認知症の人と家族の会 富山県支部の皆様」「富山県厚生部高齢福祉課の職員の皆様」に感謝申し上げます。



摂食・嚥下障害看護認定看護師の誕生

摂食・嚥下障害看護認定看護師 梶 玄

今年の7月に摂食・嚥下障害看護認定看護師になりました。摂食・嚥下とは、食べ物を認識して、それを口まで運び、もぐもぐと咀嚼し、ごくんと飲み込むこと。つまり、口から食べることです。人は加齢とともに身体の運動や感覚の機能が落ちていきます。足腰が少しずつ弱っていくように、食べることも難しくなっていきます。また、病気によってうまく食べられなくなることもあります。

北陸病院には、神経難病や重症心身障がい者、認知症などの患者さんが入院しています。なかには、箸やスプーンがうまく使えない患者さんや食事をうまく噛めない、飲み込むまでに時間がかかる、むせてしまい食べることができなくなるといった患者さんたちがいます。このような摂食・嚥下障害のある患者さんに関わり、安全に口から食べるためのサポートをすることが私の役割です。

安全に食べるためには、口のなかやのどの動きなどを評価してからリハビリを行います。また、食べるときの姿勢や食べ物の形態、介助の方法などを決めます。リハビリや食事の内容は、患者さんの状態によってさまざまです。うまく食べることができなくなってしまい、誤嚥性肺炎となった患者さんでも適切に摂食・嚥下の機能を評価して、効果的なりハビリを行うことで再び安全に食べることができるようになる場合があります。

最近、食事でお世話がが多くなった、かたいものが食べにくくなったなど不安や心配に思うことがあれば、ぜひ相談してください。ひとりでも多くの方が、人生の最期まで食べる幸せをもてるように全力でサポートします。



外来担当医表

項目	月	火	水	木	金
精神科（初診）	石橋・坂本	松下・前田（坂本）	池田・白石	坪本・白石	市川・石崎
精神科（再診）	松下・前田	白石・池田	石橋・松下	市川・前田	池田・坪本
神経内科	吉田	小竹	吉田	吉田	小竹
内科	渡辺	渡辺	山谷（渡辺）	（渡辺）	（渡辺）
心療内科				白石	
睡眠外来（初診）				細川	
睡眠外来（再診）	吉田	細川	細川		
専門外来	もの忘れ外来（吉田・坂本・市川・池田） パーキンソン病外来（吉田・小竹） 遺伝カウンセリング外来（小竹） 認知行動療法外来（うつ、不眠）（白石）		重症心身障害児<者>外来（石崎） 禁煙外来（白石） 認知症セカンドオピニオン外来（吉田）		

- 診察は完全予約制となっております。地域医療連携室にご相談ください。
- 受付時間・・・8:30～11:30 診療時間・・・8:30～12:00

【地域医療連携室 直通電話】 **0763-62-1950**

ボランティア募集

当院では、患者さまの余暇の充実を図るため、ボランティアの募集をしています。

活動内容

病院行事時の
車椅子送迎・
介助



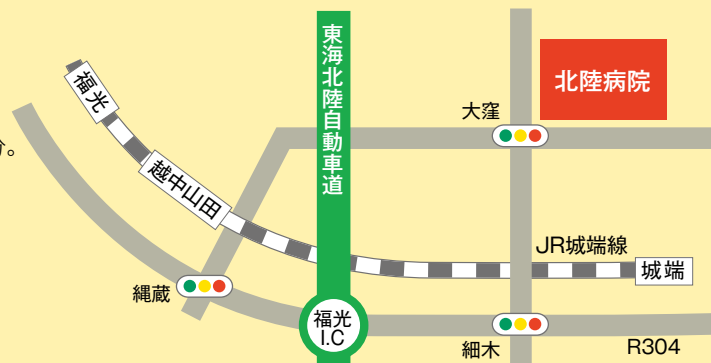
草刈り
etc



問い合わせ先 地域医療連携室 直通電話 0763-62-1950

【交通アクセス】

- ◆交通機関
JR城端線、城端駅より、タクシーで約5分。
- ◆高速道路
東海北陸自動車道、福光ICより約5分。
- ◆南砺市コミュニティーバス
JR城端駅・福光駅より出ています。



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hokuriku/>

認知症疾患医療センター

睡眠医療センター

【編集・発行】北陸病院

【広報担当】池田・坪井・今泉・坂本